



— ごあいさつ —

副会長 内野正行

本年度は、すべての事業が順調に進み、計画通りに実施できたため、その成果を会報に掲載してご紹介することができました。

私は現在、町内会や地元の小中学校のお手伝いをしつつ、畑仕事やゴルフを楽しんでいます。

会報のMy Noteでは、会員の皆様が現職時代にできなかったことに挑戦し、楽しんでいる様子を見て、刺激を受けている方も多いのではないかと思います。

退職校長会の会報「みんなの広場」では、これからも会員の皆様が参加したくなるような行事の紹介や現在の小中学校の様子、会員の皆様の頑張っている様子などを紹介します。

そして、記事を読んで、行事に参加したり、自分の生き方の参考にできるような会報づくりを務めていきますのでよろしくお願い申し上げます

My Note

会員の皆様の趣味や活動、楽しんでいる様子を掲載します。寄稿をお待ちしています。

主観と客観を行き来すること

山本直子

話題のドラマやドキュメンタリーがあると、私はX（旧ツイッター）を確認するようになりました。老若男女の意見は多様で、その多様な意見への「評価」も数値化されるため、世の流れが見えるからです。

多くは、登場人物への共感や賛否です。「主人公の気持ちになって泣けた！」といった、気持ちに寄り添い、泣いたり怒ったりする意見は多く、鑑賞する上で最も楽しいことです。

ただ…、本当に「それだけ」でいいのかと困ってしまいます。「この人物、指針を与える『老師』の役割を果たしている」とか、「この物語の構造は？」といった、「作品の外に出て、作品を客観的に眺める」という視点をもつことも大切だからです。



今、国語科においても、物語の内容を把握するだけでなく、構造や精査、解釈が大切にされています。小学校4年生の『ごんぎつね』では、“ごん”の気持ちを追うだけでなく、「『引き合わないな』と感じた“ごん”について、あなたはどのよう評価するか！」と問われるのです。

主観的な視点と客観的な視点。どちらかに偏るのではなく、2つを行ったりきたりすることは、思い起こせば、担任や管理職のときも意識してきました。おそらく多くの校長先生がそうであったように、1人1人に寄り添いながらも、集団の中での子どもや各教師の役割にも目を向けてきたのです。

ところが、現在の学級では、ともすると、1人1人に寄り添う視点ばかりが重視され、「集団の中で個を活かす」ための意識的な指導が欠けているように思えてなりません。課題を抱える子どもへの支援が重視され、「その子を取り巻く集団」をどのように指導・成長させ、その子を支えていくのかに焦点が当たりにくくなっているのです。

いつか自分が老人ホームに入った時…。そこにも、おそらくは個と集団の関係性は存在することでしょう。その時、何らかの役割を果たせるよう、「客観的視点」を持ち続けたいな…と思っています。

今、学校は！

所沢市で取り組んでいる教育活動を紹介します。今回は所沢市立富岡小学校の取組です。

「児童の読解力を伸ばす指導の研究」

所沢市立富岡小学校長 高橋 順



めざす児童像
文章を正しく読み取り、表現
することができる児童

富岡小学校は、これまで学力向上を目指して様々な取り組みを行ってきました。基礎的な「読み・書き・計算」の力の向上をめざして取り組んできた中で、平均を下回る層の回答を分析すると、「そもそも問題文を読むことができるのか」という課題が浮かび上がってきました。基礎的な学習問題でも、正しく読み取ることができなければ、それに正対した答えを書くことはできません。「文章を正しく読み取る」＝「読解力」と考え、「児童の読解力を伸ばす指導」の研究を全教科で取り組むことにしました。

<目指す児童像>

低学年・・・自分から進んで文章を読もうとする児童

中学年・・・文章を読み取り、その内容について表現することができる児童

高学年・・・文章を正しく読み取り、内容を理解した上で、自分の考えを表現することができる児童

<研究の取組>

東京学芸大学の犬塚美輪先生にご指導を受けました。犬塚先生は教育心理学が専門で、様々なご指導・示唆をいただきました。

- ・児童の読解力育成のためには、教員の話す言葉も重要になる。
→児童も教員も「文章で話す」ことを意識できるように。
- ・児童が学習で使う用語を理解できているか。
→事前に児童がつかずきそうな学習用語を確認しておく。
- ・低学年はすらすら音読できることが読解力につながる。
→国語だけでなく、他の教科も教科書も音読の宿題にする。



東京学芸大学
准教授 犬塚美輪

また、「視写プリント」や「言葉探しプリント」に取り組みました。児童が振り返りを簡潔に終えることが多かったため、「振り返りヒントカード」を作成したり、言い換えのウェビングマップに挑戦したりしました。

<図書室の活用>

読解力の向上には読書が不可欠です。昨年からは図書室のリニューアルを行い、低・高学年に分かれていた図書室を統合するとともに電子化による管理を行いました。これにより、休み時間は図書委員が積極的に貸出・返却の仕事を担い、児童が本を借りやすくなりました。絵本コーナー周辺には部分的にカーペットを敷いて、くつろいで本を読める環境にしました。



リニューアルされた図書室

<成果と課題>

児童の読解力を向上させるためには、教員の言葉遣いが重要です。児童が理解できる語彙で話しかけているか、内容をしっかり把握しているかを意識するようになったことが成果の一つです。また、図書室の利用者が増え、貸出冊数も大幅に増加しました。教室でも、隙間時間に本を読む児童が多く見受けられます。読解力の向上により、視写プリントではほとんどの児童が設定された時間内に書く量が増えました。授業では、振り返りプリントの内容も充実してきています。ただし、すべては「これまでと比べて」のことであり、これは研究の1年目なので、今後さらに内容を充実させていくつもりです。

「私も元気です展」を終えて



「久しぶり」「お久しぶりです。ポスターに懐かしい名前があったので、立ち寄りました」との会話から、作品展の最終日が始まりました。開催の3日間で、市長や教育長を含む約300名の方々が訪れ、多くの参観者に恵まれたことを非常に嬉しく思います。

今年の作品展の特徴は、会員だけでなく、一般からも広く作品を募集したことです。会員の呼びかけに応じて、新たに数名の参加者が加わりました。今年参加された方々の名前は、来年のポスターに掲載予定です。その名前を見つけた際に、さらに多くの方々が訪れてくれることを期待しています。参観された方には無理なお願いかもしれませんが、感想用紙を用意したところ、かつての教え子たちから「〇〇先生、小3の時にお世話になった〇〇です」といった近況報告や励ましの言葉をいただきました。これこそが私たちの作品展ならではの特別な瞬間です。私事ですが、展示期間中には、かつてお世話になった市の職員の方々にもお会いできました。

最後に、今年で26回目（コロナ期間中は中止）となる「私も元気です展」ですが、「私は」とは言わず「私も」とした点が素晴らしいと思います。「私も」は「あなたも」へとつながり、さらには「みんなも」へと広がるからです。（和田明広）

令和6年度所沢市教育推進研究協議会

令和6年11月1日（金）午後6時より、所沢市民文化センターミュージアにて、小野塚勝俊市長や中島秀行教育長をはじめ、多くの来賓をお迎えし、イベントを実施しました。

研究協議会では、和田小学校の立花真輝校長からの提案がありました。また、懇親会では来賓や退職校長、現職校長の間で親睦を深める機会がありました。



立花真輝校長から「子どもが幸せになれる学校づくり」の提案がありました。



研究協議会では、子ども一人一人の自己実現を図るためには、①教員定数の確保、②学校施設・設備の充実、③教職員の研修時間の確保等、熱い思いが多数発表されました。

日帰りバス旅行の思い出



一之宮貫前神社

令和6年10月10日（木）、退公連との共催事業「日帰りバス旅行」が実施されました。前日までの雨も上がり、好天に恵まれて群馬県富岡市方面に向かいました。

まず、国の重要文化財一之宮貫前神社を参拝し、次の群馬県立自然史博物館では巨大な恐竜の骨格標本に圧倒されました。割烹かわら屋で美味しい昼食をいただいてから、世界遺産富岡製糸場では現地ガイドさんの説明に聞き入りました。そして、めんたいパーク群馬や道の駅らん藤岡でお土産を買って帰途につき、思い出に残る旅となりました。



富岡製糸場



乾杯！

令和6年度受章・長寿祝賀会併せて忘年会の開催

令和6年12月7日（土）午前12時より、所沢パークホテルにて令和6年度の受章者と長寿を祝う会を兼ねた忘年会を実施しました。小野塚勝俊市長や中田利明学校教育部長を含む多くのご来賓にお越しいただきました。米寿や喜寿を迎えられた皆様に、心からお祝い申し上げます。

（米寿・山本茂雄様
（喜寿・矢島健三様
喜寿・川地康子様

米寿・加藤匡代様
喜寿・塙博紹様
喜寿・野本一夫様

喜寿・鎌滝紀和様



元所沢市退職校長会会長 山本茂雄様



元所沢市退職校長会副会長 加藤匡代様

【編集委員】（委員長）丸山昇 （委員）佐々木正憲、鈴木良明、内野正行、齋藤敏男
◎寄稿やご意見、ご要望がある場合は、編集委員までご連絡ください。